

幽香流華

寺田九空 いけばな作品集



幽香流華

寺田九空いけばな作品集

目 次

竹青の花	2
花語有情	20
花	56
花樂有心	74
「じょご頭人生」より	80
東北のハニワ	82
竹青の花器	94
枝花蝶恋	102
華曼荼羅	112

竹青の花

松韻





1973年



1974年



1995年



1992年



1986年



1990年



1995年





1986年



1985年



1989年



1990年

花語有情







1974年



1985年



1989年



1975年



27





1983年



1973年



1968年



1969年



1969年



1970年



1992年



1983年



1984年



1985年



1985年



1991年



1985年



1990年



1989年



1989年





1991年



1990年



1992年



1993年



1991年



1988年



1990年



1994年



1993年



1981年



57



1983年



1984年



1990年



1981年



1991年



1982年

1996年



1982年



1990年









72



73

花樂有心





76



77



1982年



（「よご頭人生

箱膳の味

箱膳といつてもどんなお膳のことか、わからない人が多いであろう。商業の奉公人は、このお膳で、三度のご飯をいただきたものである。

商工業の奉公人は、このお膳で、三度の飯を食をしたもののである。私の農校を出た當時は、昭和八年不景気時代で、「金解禁」政策で、なんづく「ラブラン」としてゐる人々が多く、ルンバーンという新語が生れた時代で、映画でも「アダルト」などといつた社会風刺の映画であった。

店に、見習生のようにして私をくれた。高井さんという名は立派な人で、教育者でもあった立派な方で、ゴキをかけてもらうつも立派で、いつもアツイ想いをうつしてたと思う。私の十七八歳の年なのである。横山の追廻しにある花の農園が私の担当で、人夫二、三人と共に其の仕事である。朝は五時起きで朝仕事をしてから八時頃朝食であるが、その後は春公人の食事は、ゆっくりと時間かけて味わいながら食べるなり。

さについては、いなかつたが、三日位で一晩に食べあげられるようになったものである。
しかし朝食に押しつぶしたものだから、消化不良などで困ったこともあったが、今は
世ではチヨット考えられないことである。
脂膳は四角の箱型のお膳で、フタが付いていて中に飯茶碗と汁椀と小皿が入っており、朝に食べ、昼
に食べ、夕餐へ替つて初めて自分でその食器を洗うものが朝の食事の場合はよいが、暑い季節に入
ると、食器やお膳から熱の良い匂いがして臭つてしまふほどで脂膳といふと、
その臭いが今でも鼻に憶るほどである。

と離談するのか楽しみで訪れるが、その花屋さんは、これまで夫々自立して店を開いていた三人の花屋さんが合同で会社経営に切りかえて発足したもので、その一人に石川さんという方がいる。ある日いつものようで離談したとき、話は箱膳のことになると石川さんが「今の人達に箱膳といつてもわかる人はいないだろ。俺は奉公を六年以上もしたが箱膳の味を知らない人には本当の奉公人の気持ちなどわかる筈がない」と他の二人の中で箱膳を知らなかったのは僕ぐらいのものだらう。社長たつて何が都合いいと云ふので、労なしの人のだからナア」と大見得を切つたの

で、私が「石さんここにも一人箱膳の味を知っているのがいるんだよ、俺をさしだして一人よがりは困るナア」というと「ナドゲエ工先生お膳房デルリゲエ」とびっくりのことで、南菴園時代の話をすると彼は「俺と先生ダバ兄弟分ダア！」と大よろこびで箱膳放歌がしばらくくつづいた。そのとき歌の話の中で、本公人というものは必ずいつの何時でも腹をへっていりし、食べることが楽しみのひとつで、飯を食うにしても、人より早く、量も多く食べるにはどうすればよいかと心をくだき、主人の目をぬすんで食べるにはどうするかと、自分の体験をいろいろと語ってくれたが、最後にあの箱膳の臭いは全くまいまいってしまうと私と同じようなことを云つていた。

主人の気持ちは、早飯を食うということは、主人の気持ちは感じての奉公の心からである。現在このはそれがあたり前のこと、何人の抵抗も感することなく奉公人は受けたものである。當時のようなことがあるとすれば、どんなことを云うであろうか知らないが、當時はそのような世界を通じて、一人前の社会人が生まれ育つと思う。私の人生にまつはる変遷であり、人間形成の上にも、大きな効果のあつたことは、確かである。今になつて私は父へ感謝している。

私が宿泊生活のときのことで、今でも思い出すことのひとつに、「こんなことがあつた。

今の茨城から埼玉へ、筑毛川の主導は、當時よくやめたんぽの中を通したので、思うが、家もなく人通りも少ないので、筑毛川は五、六伍位であった。荷物は、荷車で登京するので、荷物の方は悪かったのである。重い荷物は後方にかかつて、一町（二二〇メートル）も行かないうちにチヨンと荷車が後方に返り、私は引き手にかかつたまま、回も回もくり返し、町の内へつまでもチヨンブランの手乗りで、道筋



東北のハニワ

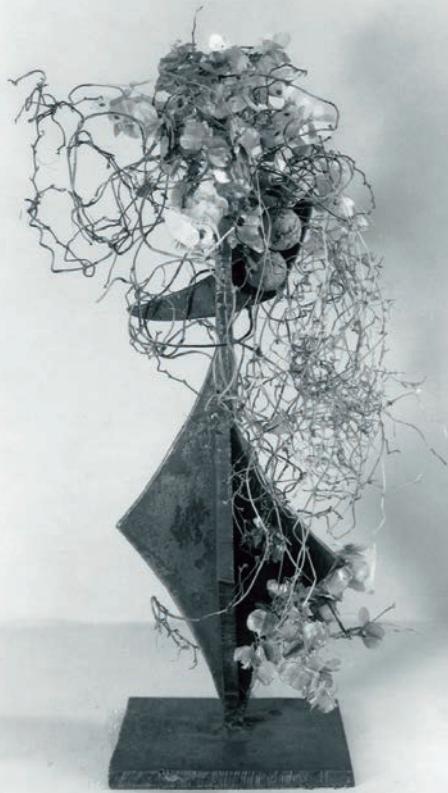
1957年



妖

1974年

貴婦人



1961年



1968年

渢

1968年



1962年



1970年

城



1961年

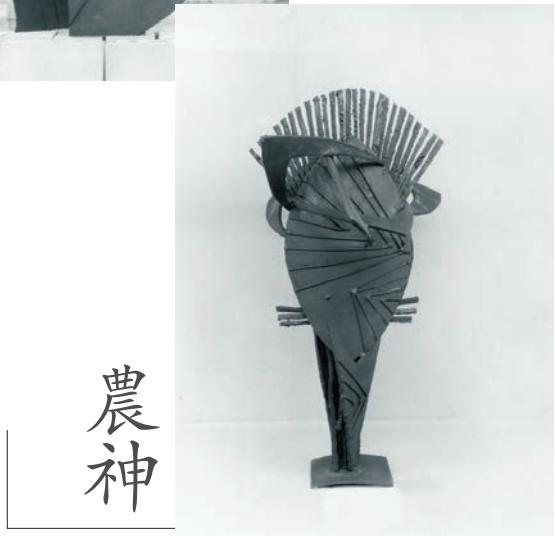
田神



1961年

1962年

農神





原始家族

1965年



1968年

ひまわり

風の音



自
画
像

竹一斎の花器



1977年



1992年



1977年



1981年



1978年



1992年



1990年



1991年

枝花蝶恋



1987年



1987年



1990年



1981年



1990年



1988年



108



109



1994年

華品茶器羅雜





1990年



1995年



1994年



1982年



1991年



1990年

掲載作品花材リスト

表 紙	枯れ向日葵 枯れ蓮葉 杜若	39P	着色錦木 板屋楓 山百合
2P	流木 松 藤蔓	40P	曼海報 杜若
4P	鉄材 藤蔓 杉 大山蓮華	41P	鬼蒲 紫陽花
5P	流木 藤蔓 板屋楓 青楓 鉄線 杜若	42P	花梅 苺薺
6P	流木 藤蔓 松 桐 青楓 カラジューム 桔梗 檻 百合 花菖蒲	43P	藤 夏槿 苺薺 藤蔓
8P	藤蔓 板屋楓 玫瑰 着色露草 太閤 睡蓮	44P	青楓 花菖蒲 松 金糸梅
10P	梅報 編太閤 石路 杜若	45P	向日葵
11P	藤蔓 どぞ松 梅報 杜若	45P	夏槿 薄 木槿
12P	藤蔓 青楓 春梅 露草 スターチス	46P	蓮韻 薔薇 麦
13P	藤蔓 もみじ 山法師 花菖蒲	48P	松 薔薇
14P	藤蔓 曼梅報 枯れ木 露潤 白椿	49P	苔梅 笹 百合
15P	藤蔓 曼梅報 松 真弓 白椿	50P	露潤 攻瑰 石蕗
16P	藤蔓 卍夷 玉羊歛 花菖蒲	51P	桐 白椿
17P	鉄材 藤蔓 鉄線 露草 紫陽花	52P	這松 攻瑰
18P	流木 藤蔓 桐 苺薺	53P	松 椿
19P	藤蔓 紫陽花 滿天星露潤	54P	柏 鉄砲百合
20P	真弓 白椿	55P	這松 枯れ紫陽花 百合
21P	青楓 鉄砲百合	56P	竹 若松 花梅 葉牡丹
21P	南天 菊	57P	薔薇
22P	松 青楓 紫陽花 百合	58P	苔梅 若松 戴椿 すかし百合
23P	柏 白椿	59P	南天 大王松 鉄砲百合
24P	松 板屋楓 苺薺	60P	青竹 花梅 戴椿
25P	青楓 山百合	61P	若松 花梅 葉牡丹
26P	黄カラー 露草	61P	苔梅 花梅 水仙 白椿
27P	太閤 苺薺	62P	カラー 水仙
27P	天門冬 カラー クレマチス	64P	桐 花菖蒲
28P	夏槿 桔梗	66P	枯れ木 女郎花 露草 鉄線
28P	満天星露潤 桔梗	67P	芭蕉 ブルディア オーニンガラム 鉄砲百合
29P	鉄線	68P	太閤 鉄砲百合 紫陽花
30P	松 すかし百合	69P	杜若 紫陽花
31P	苔梅 花梅 松 薔薇 椿	70P	夏槿 花菖蒲
32P	松 水仙 白椿	72P	太閤 夏槿 杜若
33P	姫蒲 大閼 鉄砲百合 桔梗	73P	太閤 鉄線
34P	曼梅報 トルコギキヨウ	74P	石蕗 カンパニユーラ
34P	杜若	75P	石蕗 瑞球月見草 白根葵の葉
35P	ストレリチアの葉 百合	76P	枝垂れ柳 椿
36P	松 紫陽花 鉄砲百合	77P	椿
37P	落葉松 花菖蒲	78P	芭椿
38P	松 立日隕 滿天星露潤 鉄砲百合	79P	石蕗 桔梗
		82P	木片 着色藤蔓 杉玉 カラタチ

写真
鈴木写真館
乳井写真館
小野写真



寺田九空(正伍) 主な活動歴

半世紀にわたり一貫して文化関係団体の組織づくりに専念、その活動を通して広く県民市民の芸術文化に対する意識の高揚と地域文化の振興発展に大きく貢献した。

戦前・戦後と奉職した秋田県庁を昭和27年に退職したが、昭和22年すでに「竹青華道会」を創流、家元として華道愛好者の育成に努めたかたわら昭和24年県内各流派をまとめ、華乃道同人会（現秋田県華道連盟）の結成に尽力、以来理事長、会長として本県華道界の発展に努め、全国に誇れる組織に成長させた。

昭和32年には秋田市文化団体連盟の結成に奔走、以来副会長、昭和50年から会長として「秋田市芸術祭」等を開催するなど、市民の芸術文化の振興発展と組織の強化に努めた。なお、昭和38年に秋田美術鑑賞協会を、昭和40年には秋田市文化財保護協会を、昭和59年には秋田市の文化を育てる市民の会を設立、市民文化の推進に尽力した。

昭和36年には秋田県芸術文化団体連盟（現社団法人秋田県芸術文化協会）の結成にも尽力、以来常任理事、副会長、昭和50年から会長として、専門家団体をはじめ、県内市町村文化団体の加盟促進など組織の拡大強化に努め、その活動の実態は全国から注目をあつめた。

さらに平成6年には、「全日本いけばな代表作家展」の実行委員長として、全国各流の家元52名をはじめ、県内各流から269名の出品をみるなど大成功をおさめた。

また、東北・北海道芸術文化団体協議会会長、全日本文化団体連合会副会長として全国的な文化運動のリーダーとしても活躍した。

主な受賞

昭和38年11月	秋田市文化章
昭和42年	文部省社会教育功労賞
昭和52年	秋田県教育功労賞
昭和53年11月	秋田県文化功労章
昭和53年	文化庁創立10周年記念文化功労章
昭和58年11月	藍綬褒章
平成7年11月	勲五等瑞宝章
平成9年3月	享年81歳にて永眠

- 83P 鉄材
84P 鉄材 イモヅル ブラタナスの実
85P シャレホ 紫陽花 薄
86P 鉄材
87P 鉄材
87P 鉄材 藤蔓 杉 紫陽花
88P 鉄材 流木
89P 鉄材
89P 鉄材
90P 鉄材
91P 鉄材
92P 鉄材
93P 鉄材
94P 雪柳 敷巻 チューリップ 菊
95P 松 苓葉
96P 南天 雪柳 菊 アイリス
97P 松 日本水仙
98P 松 花梅 椿 菜の花 すかし百合
99P 松 白椿 ワックスフラワー
100P 這松 白椿
101P 松 白椿 ブバルディア
102P 苔梅 花梅 白椿
103P 青楓 苓葉
104P もみじ 笹百合
105P 木瓜 白椿
106P 柿 薔薇
107P 青竹 花梅 松 白椿
108P 青楓 笹百合
109P 白椿
110P 蕈露 玫瑰
111P 松 姫石榴 菊
112P 藤蔓 桐 蕈露 苓葉
114P 桐 蔓梅擬 鉄砲百合
115P 蔓梅擬 真弓 枯れ紫陽花 鉄砲百合
116P 松 藤蔓 山法師 アスチルベ 楓
117P 桐 枯れ桜 椿 木瓜
118P 枯れ桜 青楓 アルフィニユーム 鉄線 百合
119P 藤蔓 椿 満天星躑躅 ブルーファンタ 花菖蒲

地
森
流
筆 寺田九空いけばな作品集

平成24年10月1日

編 集 寺 田 美恵子

発 行 竹青華道会本部

〒010-0951 秋田市山王二丁目9-20
TEL/FAX (018) 862-4584

印 刷 太陽印刷株式会社

〒010-0061 秋田市卸町四丁目7-5
TEL (018) 823-8384 (代)